

高崎市鳥瞰図



大正・昭和の鳥瞰図絵巻  
連載第一回  
吉田初三郎の世界

『変化を求めて下仁田から  
妙義登山しるべ』  
(昭和2(1927)年)  
上信電気鉄道 発行



# 高崎市

## 高崎市鳥瞰図

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

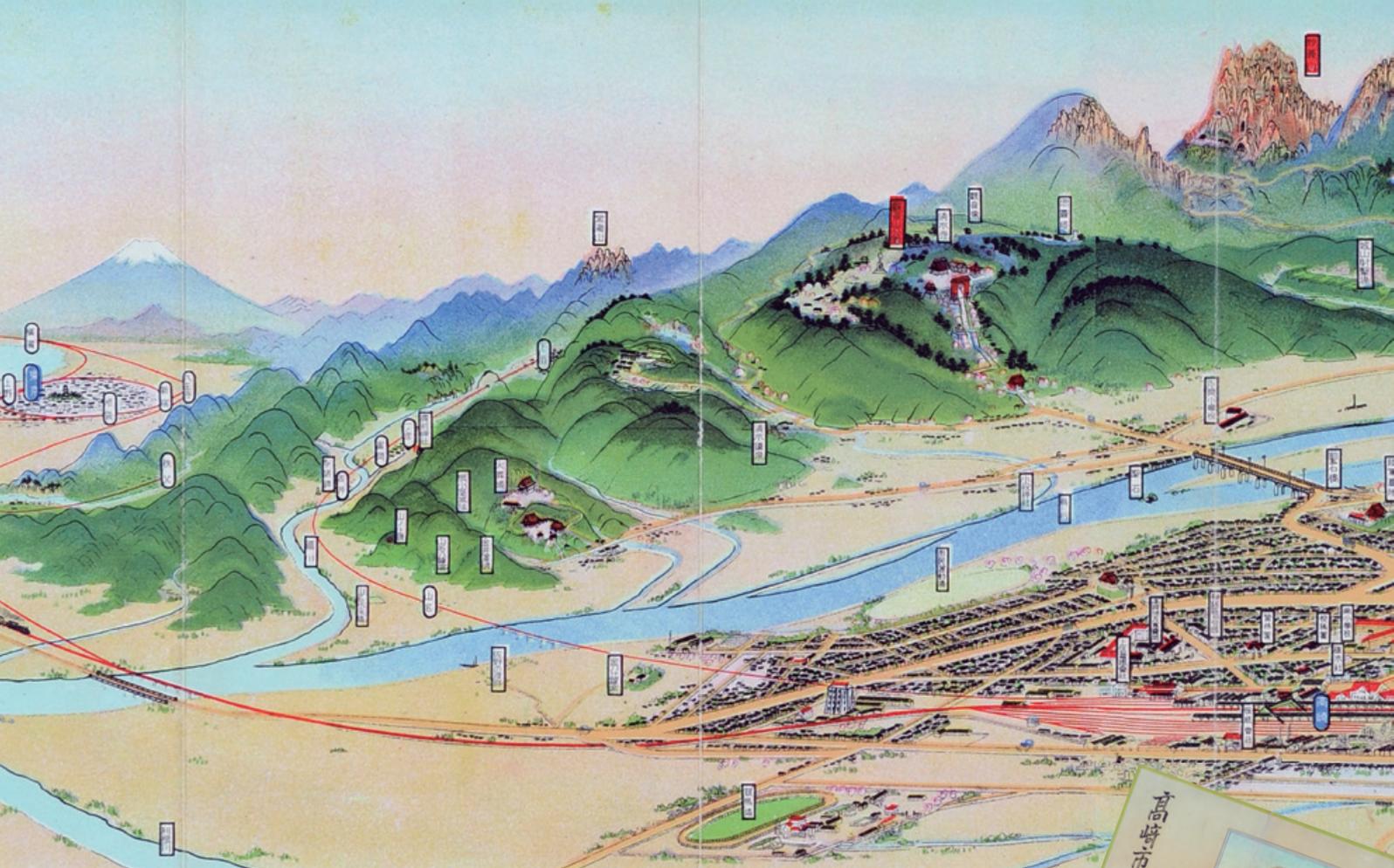
上信電鉄の前身は明治二十八年十二月、「上野鉄道」として設立されたのが社歴の始まりである。大正十年には「上信電気鉄道」と改名。昭和三十三年に現社名となる。群馬県西毛地域を代表する交通機関である。

設立から百二十余年にわたり、通勤通学の足として親しまれている。沿線には、平成二十六年、世界文化遺産に登録された赤レンガの「富岡製糸場」が上州富岡駅のほど近くに、「荒船風穴」が終点の下仁田駅から車で向かった山腹にある。上州富岡駅は、群馬サファリパークや群馬県立自然史博物館の最寄り駅としても利用される。商都・高崎から走行距離三十三・七kmの田園の旅を楽しむことも可能だ。

いち早く電化した大正十三年には、吉田初三郎のライバル・金子常光は「上信電気鉄道沿線名所案内」(複製は昭和五十四年)や路線案内図「妙義山裏山めぐり」、鳥瞰名所案内図

藤本一美

元首都大学東京・専修大学非常勤講師。地図情報センター理事。日本地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵巻の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」(私家版2006年)、最新刊に「展望の山50選 関東編」(東京新聞出版局)がある。



## 暮らしの足として地域を支え、 観光鉄道として地域に賑わいをもたらす。

群馬県の商都・高崎から下仁田まで、21駅、33.7kmの路線を営業する。民営鉄道の中でも最も長い歴史を有する会社の一つであり、群馬県西部の代表的交通機関として120年以上の長きにわたり、地域とともに歩む。少子高齢化が進む全国屈指のクルマ社会の中において、平成に入ってからは平成14年に高崎商科大学前駅、平成26年には佐野のわたし駅と二つの新駅を開業。利便性の向上に努めることで、輸送人員の確保に取り組んでいる。

また、沿線には平成26年にユネスコ世界文化遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」をはじめ、平成29年にユネスコ「世界の記憶」に登録された「上野三碑」、一ノ宮貴前神社など観光資源も多く、地域に賑わいをもたらす観光鉄道として、その存在感を増している。

### 上信電鉄株式会社

Joshin Electric Railway Co., Ltd.

設立：明治28年12月27日

本社：高崎市鶴見町51番地

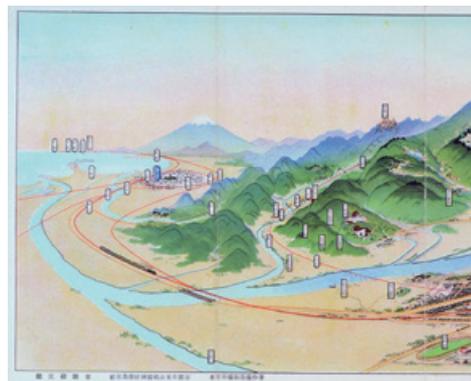


『高崎市 [高崎市鳥瞰図]』

(昭和9 (1934)年10月30日発行)

高崎市役所 発行

京都市祇園神社南門前 観光社出版部 印刷



「変化を求めて下仁田から妙義登山するべし」(上信電気鉄道発行・昭和二年)を描画して注目に値する。金子常光の昭和二年版には、終点の下仁田駅から奥、南牧川沿いに小澤、磐戸町まで計画線が延伸。路線は実現していないが、上州から信州を繋ぐ鉄道会社側の願望があったように思うのだが…。

それに対して、吉田初三郎には地方民鉄(上信電鉄)からの発注はなかった。「高崎市鳥瞰図」(高崎市役所発行)から構図を見てみると、高崎市街地を中央に大きく表示。烏川や利根川の流域域には、妙義・榛名・赤城の上毛三山を配置。聖石橋を渡った対岸には清水寺(高崎観音)もある。

図隔左寄りには、高崎駅から朱色の路線の上信電鉄が、鑄川沿いに下仁田駅まで延びていて存在を誇っている(東京の背後には富士山も)。

コンニャク栽培の名産地であり、古くからの登山基地でもある。古い話で恐縮だが、私は大学生時代から教員になりたての頃、河岸段丘や断層などの地形・地質の宝庫である下仁田周辺をよく歩いたものである。

初三郎図は、黒瀧山しか表現していないが、四ツ又山や鹿岳、稲倉山、大桁山、あるいは小粒な突峰・鉄柄岳や荒船山のことなど憶い出す。